

「貧困概念」基礎研究

二村 泰弘 編

2005 年 2 月

日本貿易振興機構

アジア経済研究所

まえがき

本書は、アジア経済研究所の 2004 年度研究事業として実施された「貧困概念」基礎研究会（基礎理論研究会）の報告書である。

「貧困削減」は、現在国際開発協力の主要な課題と位置づけられており、我が国の政府開発援助（ODA）もミレニアム開発目標（MDGs）の精神に沿って、この分野における開発協力への取り組みを強化している。しかしながらアマルティア・センらの指摘をみるまでもなく、貧困は単に所得向上、あるいは国民総生産の増大によって削減・解消される問題ではない

「貧困は多様な側面を持っている以上、これに多角的・学際的視点から取り組む必要がある」との認識は、現在多くの研究者・実務者によって共有されている。こうした認識を踏まえ、途上国問題に関する「センター・オブ・エクセレンス」を目指すアジア経済研究所は、貧困問題を多角的な視点から捉え諸学のアプローチを統合する、いわゆる学際的な取り組みによって貧困研究に独自の貢献をなし得るはずである。独立行政法人化に伴う組織改革によって、2003 年 10 月「貧困削減・社会開発研究グループ」が発足したことは、今次中期計画において貧困・社会開発が重要な研究課題と位置づけられ、これまでの成果を踏まえた継続的な研究を行う必要があるとの認識に基づいている。このような認識と意欲の具体的な一歩として、本研究会は発足した。

貧困の多面性、貧困の社会性などに関する研究は、世界銀行等をはじめとして、欧米の様々な開発研究機関で近年急速に成果が蓄積されている。これに対して我が国においては、貧困に関する本格的に学際研究は緒に就いたばかりである。当研究所において貧困問題を取り上げた成果としては 1998 年に出版された絵所秀紀・山崎幸治編『開発と貧困』があるが、それ以来貧困問題に関する研究は行われていなかった。今後本グループを核として学際的な貧困問題・社会開発への取り組みが継続的に行われることが期待される。

とはいえ、学際的研究は一朝一夕にして成果が出るものではない。学際的研究を実施する前提として、これまで経済学、社会学、政治学、文化人類学

等の様々な分野において貧困がどのように捉えられてきたのかをレビューする必要がある。一方で貧困削減に取り組む国際機関、援助国政府および援助機関、途上国政府自身がどのような取り組みを行っているのかを明らかにする必要もある。これらの作業は今後研究を進めるうえで基礎的かつ重要な作業と位置づけられる。

本研究会では、貧困問題にアプローチする様々なディシプリンにおいて、貧困概念がどのように捉えられ、そして、どのように変遷してきたのか、またディシプリン間にどのような違いがあるのか明らかにすることを試みた。同時に、途上国や地域における貧困の実態を踏まえたうえで、援助関係機関や途上国政府がどのように貧困を捉え、そのレトリックを用いてきたかについても検討した。本書の構成は以下のとおりである。

第1章「貧困の人口学 —「貧困の罨」と生活の質」で野上裕生は、豊かさの源泉である人間がなぜ十分に生産力に結びつかないかを考察する貧困の人口学の課題を、貧困の罨・人口の質という視点から先行研究を紹介しながら論じている。「貧困の人口学」から「発展の人口学」への展開は制度的分析も必要であると指摘している。

第2章「近代日本の貧困観」で佐藤寛は、日本の貧困問題について概観的な情報を提示することが途上国における貧困問題に接するさいの「参照軸」となるとしている。明治、大正、昭和と劇的に変化を遂げてきた日本社会の裏面史の部分に徐々に光が当たる過程を社会的背景と施策について簡潔に論述して貧困の近代史を描き出している。

第3章「貧困と政治参加 —無効票の分析」で東方孝之は、インドネシアの選挙の事例を取り上げ、所得貧困が政治参加に及ぼす影響として、無効票について分析を行った。貧困層の多い地域ほど無効票の割合が多くなり、相対的に貧困層の政治参加が阻害されており、選挙における平等が保証されていないことが確認できた。

第4章「社会的排除」と貧困問題 —ラテンアメリカを中心に」で近田亮

平は、貧困を社会学的に捉えるため「社会的排除」と分析アプローチの重要性に触れ、途上国の貧困問題をより多面的に把握することが可能になると指摘する。西欧で生まれた概念を途上国に適用することの難しさもあるがラテンアメリカでは比較的定着しつつあるとしている。

第5章「貧困の国際政治学—「貧困削減」の背後の政治力学」で初鹿野直美は、貧困概念のもつ政治性、そして援助の歴史で貧困問題がそのように扱われてきたかについて論点を整理した。貧困削減が注目されるという現象に対応する援助機関、援助研究・貧困研究のレトリックが貧困の実態解明に繋がると結論づけた。

第6章「貧困層を顧客とする産業—インドのマイクロファイナンス、農村市場開拓の取り組みを取り上げて」で中村まりは、低所得者層・貧困層を市場に組み入れるビジネスのあり方について分析を行った。援助やチャリティといった「上から与える」のではなく、市場を通して貧困削減へアクセスする視点の転換が途上国で進行していると指摘した。

第7章「フィリピンの海外労働者—「出稼ぎ」と貧困のジレンマ」で二村泰弘は、いまや出稼ぎ大国となったフィリピンの海外就労の実態を明らかにしている。政府が国外就労を支援し、かれらの海外送金がフィリピン経済を支えるという構造のなかで、貧困地域からの女性労働者の存在がフィリピンの特質であることを指摘した。

本報告書を取りまとめるにあたっては、各委員の発表をベースに11回の研究会を開催した。研究会には、委員のほか研究所職員の参加を得ました。有益なコメントをいただいた方々に厚くお礼申し上げます。本報告書が研究所内外において、貧困研究ならびに社会開発研究の理解・発展の役に立てば望外の喜びである。

編者

本研究会の委員は以下のとおりである（所属はすべて、日本貿易振興機構
アジア経済研究所）。

第 1 章 野上 裕生 新領域研究センター

第 2 章 佐藤 寛 開発研究センター

第 3 章 東方 孝之 新領域研究センター・貧困削減・社会開発研究グループ

第 4 章 近田 亮平** 新領域研究センター・貧困削減・社会開発研究グループ

第 5 章 初鹿野直美 新領域研究センター・経済技術協力グループ

第 6 章 中村 まり 新領域研究センター・貧困削減・社会開発研究グループ

第 7 章 二村 泰弘* 新領域研究センター・貧困削減・社会開発研究グループ

*研究会主査 **研究会幹事

目 次

まえがき	i
第 1 章 貧困の人口学—「貧困の罨」と生活の質	
野上 裕生	1
はじめに	1
第 1 節 開発経済学と人口研究	2
1. 人口規模と経済発展	2
2. 貧困の罨と人口成長	3
第 2 節 人口統計に見る生活の質	5
1. 「人口の質」	5
2. 歴史の中の貧困と健康	6
むすび—「貧困の人口学」から「発展の人口学」へ	8
第 2 章 近代日本の貧困観	
佐藤 寛	15
はじめに	15
第 1 節 日本の古代史における貧困の記述と貧困対策	15
第 2 節 近代以前の日本における飢饉対策の歴史	18
第 3 節 近代日本の貧困・細民研究（明治時代／日清・日露戦争）	22
第 4 節 大正デモクラシーと社会正義（第一次世界大戦～世界恐慌）	26
第 5 節 昭和大恐慌と農村更正運動	31
第 6 節 戦後日本の都市貧困問題	32
第 3 章 貧困と政治参加—無効票の分析	
東方 孝之	37
はじめに	37
第 1 節 無効票の発生	37
第 2 節 貧困と無効票の関係 - インドネシアとインドの比較	41
第 3 節 分析	51
1. 推計方法	51

2. 推計結果	53
おわりに	55

第4章 「社会的排除」と貧困問題—ラテンアメリカを中心に

	近田 亮平	61
はじめに		61
第1節 「社会的排除」の起源と背景		62
第2節 「社会的排除」という概念—何からの排除なのか？		64
1. 労働市場に関する排除		64
2. マクロ経済開発からの排除		65
3. 財とサービスからの排除		65
4. 市民であることの権利からの排除		66
第3節 社会的排除分析アプローチ		66
第4節 開発途上国における社会的排除概念と分析アプローチ		68
おわりに—市民であることの権利の政策的インプリケーション		69

第5章 貧困の国際政治学—「貧困削減」の背後の政治力学

	初鹿野 直美	73
はじめに		73
第1節 貧困概念のもつ政治性		75
第2節 貧困削減の歴史		77
第3節 1990年代末以降における貧困削減のレトリック		79
1. 1990年代後半以降の貧困削減に向けた取組み		79
2. 国際援助機関にとっての貧困削減		81
3. 貧困研究にとっての貧困削減		83
結び		85

第6章 貧困層を顧客とする産業

—インドのマイクロファイナンス、農村市場開拓の取り組みを取り上げて

	中村 まり	89
はじめに—貧困削減はビジネスになるのか？		89
第1節 貧困層を顧客とするビジネス		89
1. 搾取や福祉事業とビジネスの違いとは？		89

2 . 貧困層の直面している割高な市場.....	90
3 . 貧困層市場の大きさ	91
第2節 インドのマイクロファイナンス (MF) の事例	92
1 . インドのマイクロファイナンスの概要	92
2 . MF サービスの担い手.....	94
第3節 インド農村市場開拓の取り組み	96
1 . HLL の Project Shakti	96
2 . ITC の e-Choupal	98
むすびに	99

第7章 フィリピンの海外労働者—「出稼ぎ」と貧困のジレンマ

二村 泰弘.. 103

はじめに	103
第1節 フィリピン人海外労働者の実態	104
1 . OFW (フィリピン人海外労働者) : その歴史的経緯	104
2 . OFW と派遣国・地域	105
3 . 海外就労のメリット・デメリット	109
4 . 海外在留フィリピン人と海外送金	110
第2節 フィリピンの貧困と OFW	114
1 . フィリピンの貧困状況について	115
2 . OFW の属性と貧困との関連性について	115
おわりに	123